チョウの気持ち。

「アカ子さんの願い」

これは去年の7月、チョウセンアカシジミのアカ子さんが一生を終える前に書いたものです。

皆さん、わたしはチョウセンアカシジミのアカ子といいます。普代上区の三陸鉄道ののり面に住んでいます。実は、皆さんにお願いがありペンをとりました。

今日（平成16年、つまり去年の夏）は7月25日、とっても暑い日です。突然こんなことを言うのもなんなのですが、わたしはもうすぐ死んでしまいます。私たちチョウセンアカシジミの命は3週間しかないのです。

ちょうど3週間前にわたしはここでチョウになりました。わたしの母は去年（平成15年のこと）の7月、わたしを産んで、すぐに亡くなりました。悲しかったけど、それがわたしたちチョウの運命なので、今はわたしたちを産んでくれた母に感謝しています。

わたしは去年の7月から卵の中でそっと冬を過ごしました。そして、今年の5月、桜が咲いたころ、やっと卵から出て、幼虫になりました。幼虫のころは6月までデワノトネリコの葉っぱを食べて、この木で過ごしてきました。そして、6月中旬にさなぎになり、7月のはじめに、やっとチョウになりました。チョウになってからは、葉っぱに付いている水滴を飲みながら暮らしてきました。

そして、わたしはここで、ジジ男さんと出会い、縁あって結婚しました。それからわたしたちは楽しく過ごし、たくさんの子どもを授かりました。子どもといってもわたしたちは卵しか生めません。卵はわたしたちが出会った記念のデワノトネリコの木に産みました。そして、ジジ男さんはその3日後に亡くなりました。悲しいですが、とっても幸せでした。

でも残念なのは、わたしはこの子たちの成長を見ることができません。それはわたしたちチョウは卵を産むと一生が終わるのです。それがわたしたちの運命だからです。子どもたちが立派に成長するように、今は祈っています。

トネリコを植え生息地をつなげましょう

尾形（おがた） 洋一（よういち）さん（52歳・宮古市在住）

昭和60（1985）年チョウセンアカシジミの会結成、代表に就任。会員は東京など全国で50人。県内のチョウの生息地を調査しながら保護活動を進め、各市町村の観察会などでも講師を務めている。

普代村は今でも素晴らしい自然に囲まれた、緑豊かな土地なので、自然保護といってもなかなかピンとこないと思います。このチョウを保護するには、デワノトネリコを植樹したり、下草を刈ったり生息地の整備が必要です。

チョウの生息地の地図を見ても分かるように、すでに非常に狭い点となっているそれぞれの生息地を線でつなげるような形でのデワノトネリコの植樹が必要です。

チョウセンアカシジミは人里を好むチョウです。人家に近くの手の入ったところは、夏場の天候が悪くても、そんなに大きく減ることはありません。むしろ人の手が入らないところでは急激に減ってしまいます。

普代川沿いに家があるお宅の庭先や堤防沿いにトネリコの木を植えれば、上普代から役場までつながって、チョウにとってすごくいい環境ができると思います。そうするとわざわざ生息地に行かなくても天然記念物になっている貴重なチョウを家から観察することもできます。

チョウセンアカシジミの観察は子どもたちをはじめ、村民の皆さんが身近な生態系を学習するよい素材ですし、普代村全体の環境に正しい目を向けるきっかけになると思います。